

東京支部春のバス紀行

新緑の匂う五月十七日いつものように集合地丸ビル明治屋前を定刻きつかり八時半に出発した。少々走ったところで安東さんより

今日の計画の説明を含め挨拶があり、辰巳会としても大変名誉なことです。ひきつづいて植田支部長より「皆様方の永年にわたる格別のご懇情とご支援の賜と衷心より感謝致しております。」とご懇切なお礼の言葉があり全員われんばかりの拍手をしてお慶び申し上げた。

今日のバスは藤田観光自慢の新型で座席が高くなっている二階式、階段が一寸厄介だがそのかわり車窓からの眺望がきく。隣を走っている普通のバスの屋根ごしに向こうが眺められる。当日は絶好の日本晴に恵まれた幸運もあり、首都高速から中央高速を走るにつれ視界が段々ひらけてくる。祝迦堂サービスエリアに十時過、こゝで少しの休憩をとる。

運よく人も車も少なくゆつくり



昇仙峡勝記念於夫婦木神社
平成2年5月17日

定していたのであるが、混んでいきなり第一の目的地昇仙峡に向かう。約一時間。この間の高速はグリーンラインを走る。こゝらになると可成りの高地となり両側の人家は稀で新緑に茂る木々が、或は林となり或は小さな群をなしている。先程まで目立った葡萄畠を見ることは稀となる。中央高速に入つてまもなく、天気がよいので

富士が早々と車窓に姿を現してくれる。始めは雲のかげにうつすらとした輪郭をのぞかせていたがバランスが走るにつれて確きりとした形下の青緑の山裾が山野の向うに明るかな山容を見せる。空、山、野方には南アルプスがゆつたりとした威容を開する。山頂と空との境には白く雪を頂いた頂上が連なり、上空は透き通るような青空で所々雲が白い色に光る。暖かいよう又透徹した清潔な冷気が感じられる。さすがに高原の国と思う。進むにつれ両側に崖が迫り、茶白く岩肌を露わにした巨岩が大小の崖が通つた部屋に炉が五つ切つてあり名物のほうとう鍋がかゝつている。まあ山梨の郷土料理で小麦粉麵を中心にしてこれに味噌、南瓜、大根、人参その他要するに野菜料理。淡白な味で結構食べられた。幹事の挨拶、乾杯があつて開会場の別棟に到る。天井に黒木の柱が通つた部屋に炉が五つ切つて

ロビーをぬけるとすぐ広い庭園、その裏の回廊と小径を通つて昼食会場の別棟に到る。天井に黒木の柱が通つた部屋に炉が五つ切つてあり名物のほうとう鍋がかゝつている。まあ山梨の郷土料理で小麦粉麵を中心にしてこれに味噌、南瓜、大根、人参その他要するに野菜料理。淡白な味で結構食べられた。幹事の挨拶、乾杯があつて開会場の別棟に到る。天井に黒木の柱が通つた部屋に炉が五つ切つて

辰巳会東京支部春の例会参加者
平成二年五月十七日(木)
(五十音順・敬称略)

大	請	上	植	石	移	安	荒	芦	原	有
潔	川	野	田	井	川	東	木	木	原	一
久	同	同	金	三	好	同	從	伴	伴	一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
伴	保	耿	伴	治	男	夫	伴	中	淨	加
計	西	西	長	田	田	建	嶋	近	杠	桂
二十六名	村	川	橋	代	辺	部	内	藤	廣	彦太郎
	鎌次郎	明忠	ヨシ子	満寿子	桃枝	鳩	五郎	福雄	繁	
	子	也	也	也	也	也	也	也	也	

宴となる。他に油もの、魚その他一品ものがつき、静かな部屋で飲み物はビールに地酒それにジュー^sができる。約一時間食事を楽しむ。再びバスで惠林寺につく。こゝは自由見物。見物人もなく少しの間落ちついた雰囲気を味わう。こゝの山門で織田信長に百余人の僧が焼かれたとき、時の快川国師が「心頭滅却すれば……」の辞世をのこしたので有名である。寺には信玄の墓もある。

こゝを出て再びバスで中央葡萄酒KKの見学に向う。勝沼町等々力という所。まわりは葡萄畠が続く。始め地下の貯蔵倉に案内。木樽、金属製樽が天井まで並ぶ。こゝで数年熟成されるのである。

温度管理が大切なこと。終つて一階の応接室でいろんなワインの説明と試飲。四種類の違った性質のものを説明され、皆神妙に聞き入り味わう。さいごにおすすめ品である周五郎のヴァン（商品名）を皆さん納得して購入される。名の如く作家の山本周五郎氏が絶賛したもの。（ちなみに氏は当社とは何の因縁もなく、たまたま味にふれて感銘されたものである。）

なおこの酒蔵会社の紹介は本日出

（五月二十二日 U記）

物故者名簿

平成2年6月30日迄

御芳名	死亡年月日	享年	最終勤務先
小永村	昭和62年 ク 2月2日	85才	名古屋支店
阪布	昭和63年10月26日	89才	東京支店
坂	ク 12月24日	91才	本店保険部
宮	ク 6月3日	83才	本店タイピスト
見	平成元年 ク 5月30日	97才	神戸製鋼所
池	ク 7月23日	89才	播磨造船所
竹	ク 7月25日	73才	鈴木薄荷
松	ク 8月16日	86才	大阪支店
施	ク 8月16日	87才	本店小麦課
松	ク 12月3日	89才	帝人
倉	ク 12月10日	87才	本店経理課
中	ク 12月30日	87才	小樽支店
施	ク 2月22日	99才	本店文書課
松	ク 5月28日	85才	帝国汽船
倉	ク 7月28日	88才	東京支店
中	平成2年1月27日	86才	下関支店
施	2月1日	81才	本店庶務課
松	2月14日	79才	大日本塩業
倉	2月28日	88才	東京支店
中	3月16日	88才	神戸製鋼所
施	3月16日	90才	豊年製油
松	4月12日	94才	帝人
倉	5月31日	88才	上海支店
中	6月26日	88才	